



子供たちに伝えたい美しい日本語

石井式育み文庫

絵／神谷一郎

題字／楽書家・岐葉

夕鶴



昔、ある山里に

貧しい若者が住んでいました。

ある日のこと、

若者が山の畑から帰ろうとすると

草むらの中から、

はたばたという音が聞こえてきます。

「何だろう。」

近づいてみると、羽に矢を受けた鶴が

苦しみがいていました。

鶴





若者



「ああ、これは痛かろう。」
若者はそう言って矢を抜いてあげました。
鶴はいくらか楽になったようです。
しばらくすると、
「こーっ、こーっ。」
と、鳴きながら、若者の頭の上を回って、
真っ赤な夕日に染まった
西の空へ消えて行きました。